



命と場所を守る
市政を!

横浜市会議員 / 看護師・防災士・博士(心身健康科学)

青葉台小・桐蔭・慶応大

田中 ゆき

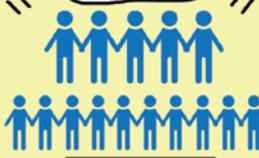
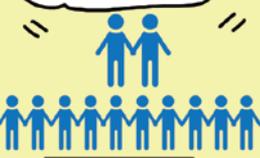
討議資料

28
2022,09



- プロフィール**
- 青葉区育ち、青葉台小学校
 - 桐蔭学園高等学校 / 桐蔭会(監事)
 - 慶應義塾大学商学部 / 体育会ボート部
 - 人間総合科学大学大学院
 - 日本航空CA(客室乗務員)
 - 看護師(病院・企業・学校・保育・地域包括)
 - 桐蔭横浜大学保健室
 - 衆議院議員江田けんじ秘書
 - 所属委員会(常任)市民・文化観光・消防委員会(特別)健康づくり・スポーツ推進特別委員会

Vol.28 「ひきこもり」を孤立させない市政に!

<p>1 「ひきこもり」とは…</p>  <p>社会参加(仕事、学校、他者との交流)をせず 6か月以上にわたり家庭内にとどまり続けている状態</p>	<p>2 ひきこもりの状態は様々</p>  <p>自室からほとんど出ない 自室から出て家から出ない 近所のコンビニ等には出かける 趣味の用事の時だけ外出</p>
<p>3 横浜市のひきこもり状態にある人 (推計値、平成29年度調査)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="129 1247 406 1564"> <p>約15,000人 (1.39%)</p>  <p>15歳～39歳</p> </div> <div data-bbox="438 1247 714 1564"> <p>約12,000人 (0.90%)</p>  <p>40歳～64歳</p> </div> </div>	<p>4 「ひきこもりかな?」と思ったら…</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>横浜市ひきこもり相談専用ダイヤル 045-752-8400</p> <p>横浜市青少年相談センター 045-752-8366 (相談専用、おおむね15歳～39歳)</p> </div>  <p style="color: red; font-weight: bold;">ひとりでも抱え込まずに相談を!</p>



ひとりで抱え込まずに相談を!

ひきこもりとは、ほとんど家から出ない生活が6か月以上続いている状態をいいます。

ひきこもりの状態は人それぞれで、状況を変えたいと思っても、どこに何を相談して良いのか分からず、ひとり悩む当事者・家族も少なくありません。「ひきこもりかな?」と思ったら、市のひきこもり相談窓口へお早めにご相談下さい!

ひきこもりは早めに相談を！

ひきこもりは若者だけでなく、中高年も抱える悩みです。ひきこもりが長期化すると、社会参加や自立の機会を失い、8050問題（80代の親がひきこもりの50代の子の生活を支える状態）も懸念されます。「ひきこもりかな」と思ったら、早めに相談しましょう！



田中ゆきの「ひきこもり支援」施策

- 身近な地域での相談窓口の設置と住民への周知
- ひきこもりに関する普及啓発と情報発信の推進強化
- 多様な相談支援窓口の整備(電話、メール、SNS等)
- 訪問支援や同行支援体制の整備と利活用の推進
- 学校や地域、関係機関と連携した早期支援体制整備
- 民間相談機関、支援機関等と連携した支援体制の構築

相談支援につながりにくい当事者・家族

長期にわたり学校や仕事へ行けない状況を家族が心配しても、本人が「コンビニや趣味の用事で外出できている」「オンラインゲームで他の人と会話している」等の理由から、自分がひきこもりと思っておらず、相談しにくいと感じる家族もいます。また、本人が「自分はひきこもりかも知れないが、どうしたら良いのか分からない」「仕事をしなければと焦りはあっても、一歩が踏み出せない」と思っており、相談までには至らないケースがあります。

ひきこもりかもしれない…
どうしたら良いのだろう…



若者のひきこもりから8050問題へ

ひきこもりという言葉がではじめた1980年から90年代にかけては、若者の問題とされてきましたが、約30年が経過した現在、8050問題のように、中高年のひきこもりも社会問題化しています。中高年のひきこもりの中には、当時の若者が40代、50代となり、その親が70代、80代となってしまった、ひきこもりの長期化の事例もあります。

その背景には、ひきこもりの当事者・家族が社会から孤立してしまう状況があるため、ひきこもりは早期のうちに適切な機関に相談することが重要です。

本市のひきこもり支援も新たな局面へ

これまで本市のひきこもり支援は、こども青少年局が管轄する青少年相談センターが、主に39歳までを対象として相談や支援を行ってきました。そのため、40歳以上の当事者・家族は相談しづらい状況がありました。しかし、中高年のひきこもり支援のニーズが高まり、市は今年4月に健康福祉局に「ひきこもり支援課」を新設、5月には全年代を対象とした「ひきこもり相談専用ダイヤル(045・752・8400)」を開設しました。

39歳までが対象
青少年相談センター



全年代が対象
ひきこもり支援課

新設

支援を必要とする人を孤立させないために

全世代からの相談を一元的に受け付ける相談窓口の設置は、特に40歳以上の当事者・家族にとっては、相談窓口が明らかになり、ひきこもり相談しやすい環境が整備されました。しかし、課題は支援を必要とする人が相談窓口につながりにくい状況を改善することです。広報紙やSNS等の様々な媒体や、民生委員など地域のつながりを通じて、支援を必要としている当事者・家族が相談窓口とつながる有用な広報や地域連携を強化することが重要です。支援を必要とする人へ、早期に支援が届くひきこもり施策を実現したいと思います。

● 青少年相談センター

横浜市内在住のおおむね15歳から39歳までの青少年とその家族。ひきこもり、不登校、家庭内暴力や友人関係など相談に応じます。

☎ 045-752-8366 相談専用

月～金曜 8:45～17:00
(土、日、祝日、年末年始除く)

● ひきこもり専用ダイヤル

横浜市内在住のひきこもり状態にある本人やその家族。年齢は問いません。

☎ 045-752-8400 相談専用

月～金曜 9:00～12:00 / 13:00～17:00
(土、日、祝日、年末年始除く)